

12/3 南京の記憶を今につなぐ

松岡環ドキュメンタリー映画最新作

映画&トーク
12月3日(土)
午後1:10開館
~1:30開始
エルおおさか南館5階ホール
(地下鉄・京阪天満橋)
参加協力券:1000円

「太平門外の大きな外壕が
死骸で埋められてゆく」

南京民間抗戦博物館・呉先斌館長初来日!

太平門 消えた

1300人

監督 / 松岡環

編集・音声 / 中井信介

撮影 / 松岡環 林伯耀 井ノ川泉

中井信介 武田倫和 小川英子

翻訳 通訳 / 高文軍 盛卯弟 常娣 羅慶霞

モーメン

協力 / 銘心会南京日中平和研究会

侵華日軍南京大屠殺遇難同胞紀念館

南京民間抗戦博物館

元日本兵のみなさん

南京大屠殺被害者のみなさん

太平門付近に住むみなさん

特別支援 / 陳君實 CHEN・IVY

捕虜に食わせる飯はない。 「女も男も皆殺せ」 でしたな。



南京城の東に位置する玄武湖。今も、春は岸辺の楊柳の若芽が揺らぎ、夏はあでやかな蓮の花が湖面にいっぱい広がっている。ここは六朝の時代から人々の憩いの場であった。この湖のほとりに太平門と名付けられた一つの城門があった。南京攻略戦には約 20 万の日本軍が南京に向かった。「太平門に於ける守備の一中隊長が処理せしもの約 1300」(第 16 師団中島今朝吾師団長日記)「数日各所に銃声が聞こえた。太平門外の大きな外壕が死骸で埋められてゆく」(第 30 旅団佐々木到一旅団長の私記)に太平門の集団虐殺が記されている。しかし太平門での市民や捕虜の殺戮は、現在まで研究者の間でまったく取り上げられてこなかった。それは、後世に伝えるべく生存者が一人もいなかったからである。私は、南京大虐殺に関わった元兵士の調査を始めて数年経った頃、「太平門の城壁の一角で男も女も地雷、機関銃、焼殺。」「壕に捕虜を何百と入れて機関銃で掃射。」などの証言を採録した。以来 5 年の歳月をかけて太平門附近から集団転出先まで人々を追い、たった一人の生存者がいたことを突き止めた。その人は小王(シャオワン)と太平門の住民から呼ばれていた。 監督：松岡環

■プログラム■

- 1、トーク「アウシュビッツから南京へ」
市川明大阪大学名誉教授(ドイツ文学研究)
×松岡環(南京攻略戦参戦元兵士と被害者の調査研究)
- 2、南京民間抗博物館・呉先斌館長
(南京の歴史展示を民間で初めて開館) 初来日
- 3、呼びかけ団体からのリレートーク
- 4、完成版・南京ドキュメンタリー映画
『太平門消えた 1300人』上映(75分)

■関係者のプロフィール



●呉先斌(ウシェンビン)・南京民間抗日戦争博物館館長
呉先斌館長が資料を集め同館を博物館として 2006 年に正式開館した。同館では国内外の研究者との定期的研究交流会を開いている。3700 余件の文物資料、4 万冊を超える日中の古書蔵書は研究者に開放されている。呉館長は近年、元国民党軍兵士の調査にも力を入れている。



●市川明(いちかわ あきら)・大阪大学名誉教授
1948 年生。大阪大学名誉教授。専門はドイツ文学・演劇。ブレヒト、ハイナー・ミュラーを中心にドイツ現代演劇を研究。多くのドイツ演劇を翻訳し、関西で上演し続けている。以来、ドイツのホロコーストと日本の南京虐殺のとらえ方に目を向けている。



●松岡環(まつおかたまき)・銘心会南京代表
1988 年から南京に足を運び、南京大虐殺の調査を続けている。南京攻略戦元兵士 250 名の調査、被害者 300 名以上の調査を行い、証言集や資料集を刊行した。2010 年からドキュメンタリー映画制作に力を入れ今秋第 3 作『太平門消えた 1300人』を完成させた。



■エルおおさか南館5階ホール
(地下鉄・京阪天満橋下車)

■「南京の記憶を今につなぐ」集会 呼びかけ人(9月14日現在)

伊関要(大阪城狛犬会) 市川明(大阪大学名誉教授) 垣沼陽輔(全日本建設運輸連帯労働組合近畿地方本部) 木戸衛一(大阪大学教員) 戸毛敏美(NPO 大阪府日中友好協会) 富山弘毅(しまもと9条の会) 中北龍太郎(関西共同行動) のつかよこ(撫順の奇跡を受け継ぐ会関西支部) 服部良一(社民党元衆議院議員) 前川武志(日中労働者交流協会) 松岡環(銘心会南京) 山元一英(全日本港湾労働組合関西地方大阪支部) 山本恒人(日中友好協会大阪府連合会) 吉田宗弘(反戦反天皇制労働者ネットワーク) 劉中耀(大阪華僑総会) 渡辺武(元大阪城天守閣館長) 市場淳子 岡田光司 古賀滋 古橋雅夫 山田光一

■賛同団体 大阪全労協、大阪教育合同労組